

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104076
法人名	有限会社 パッション
事業所名	グループホーム パッション
訪問調査日	平成21年12月14日
評価確定日	平成22年1月29日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4670104076
法人名	有限会社 パッション
事業所名	グループホーム パッション
所在地	鹿児島県鹿児島市和田1丁目16番1号 (電話) 099-269-1171

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年12月14日	評価確定日	平成22年1月29日

【情報提供票より】(21年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 1 月 4 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16	常勤	12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 14, 7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費1日400 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
または1日当たり 1000 円				

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	14 名
要介護1			要介護2	3 名
要介護3	7 名		要介護4	4 名
要介護5	3 名		要支援2	名
年齢	平均 87.3 歳	最低	81 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	橋野循環器科内科・伊藤整形外科クリニック・ひらせ歯科クリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市郊外谷山の病院、スーパーがあり、交通の利便性が高い恵まれた環境にある。国道沿いではあるが、ホーム裏手は静かな住宅街で近くの川沿いは散歩コースに最適である。医療機関との連携もとれており、利用者の健康管理やターミナル期の支援体制、非常時の協力体制などが構築されている。職員構成も整っており、全職員が有資格者で看護師も多く介護などの経験豊かな職員も揃っている。離職が少なく、職員の定着がいいことが利用者とのなじみの関係の構築と家族との信頼関係にもつながっており、家庭的でおだやかな雰囲気ของกลุ่มホームである。管理者は職員育成に力を入れており、職員主体の業務やさまざまな取り組み、レベルアップのための資格取得の支援、外部研修受講など職員の意識向上につながっている。また、「食」にも力を入れており、近くの市場で食材を調達し、利用者にとって「食」が楽しみとなるように材料をふんだんに使った手作りの栄養バランスのいい食事を提供している。開設5年目になり利用者の高齢化、重症化は現実ではあるがホームとしての最大限の支援に努め、質の高いサービスの提供が行われているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善点はなかったが常に改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は項目を分担し職員に振り分けて各ユニットでまとめあげた。自己のケアを振り返り、見直すことで職員の意識も高まりサービスの向上につながるように評価を活かしている。また、改善すべき点については全職員で話し合い取り組み、結果は家族にも報告している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町内会長、民生委員、家族代表、行政関係者などの参加を得て2か月に1回開催している。民生委員より地域の高齢者の情報と相談や家族との関わりについてのアドバイス、ターミナルケアについての話し合いなど、運営推進会議が地域貢献とホーム運営に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者職員は家族などの意見を取り入れる重要性を認識し、ホーム代表と家族会代表者が窓口になり、連絡先を玄関に明示するとともに重要事項説明書にも地域代表とともに苦情相談の受付窓口として明記している。職員も話しやすい関係が構築できるように、家族と密な関わりに努めている。出された意見、要望などについては職員とともに検討し、結果を伝えている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、校区運動会、文化祭、谷山ふるさと祭りの見学などに出かけている。また、地域のボランティアの方々が踊りやマンドリン演奏に訪れたり、ホームの行事に地域の方々が手伝いに来てくれるなど協力を得られている。近隣の保育園児の訪問や高校生の実習の受け入れもしており、子ども達との交流もある。今後は職員が地域の敬老会やお達者クラブなどの場に出かけ、様々な社会問題や福祉についての寸劇を見てもらい地域貢献ができればと計画中である。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「安心して生活できるよう、私はあなたの家族になりたいです」「あなたの趣味や生きがいを活かし地域社会に貢献できるようサポートします」とあり、地域密着型サービスの意義を理解し、家族として利用者の社会貢献と地域との交流の重要性をうたった理念を職員全員で作りに上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、案内板、職員更衣室に掲示している。毎月のミーティングなどで地域との交流について話をしたり、職員のネームの裏にも理念を印刷し、日常の業務の中で常に理念を確認できるようにしている。また、重要事項説明書にも明記している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、校区運動会、文化祭、谷山ふるさと祭りの見学などに出かけている。また、地域のボランティアの方々が踊りやマンドリン演奏に訪れたり、ホームの行事に地域の方々が手伝いに来てくれるなど協力を得られている。近隣の保育園児の訪問や高校生の実習の受け入れもしており、子ども達との交流もある。今後は職員が地域の敬老会やお達者クラブなどの場に出かけ、様々な社会問題や福祉についての寸劇を見てもらい地域貢献ができればと計画中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は項目を分担し職員に振り分けて各ユニットでまとめあげた。自己のケアを振り返り、見直すことで職員の意識も高まりサービスの向上につながるように評価を活かしている。また、改善すべき点については全職員で話し合い取り組み、結果は家族にも報告している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、家族代表、行政関係者などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。民生委員より地域の高齢者の情報と相談や家族との関わりについてのアドバイス、ターミナルケアについての話し合いなど、運営推進会議が地域貢献とホーム運営に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービスについての相談や助言をもらうなど機会を捉えては連携をとるように努めている。また、介護相談員の受け入れもしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、ホーム便りと個別に作成している短期の評価を同封して送付している。また、遠方の家族には報告書を送ることも多く、緊急の場合はその都度電話にて連絡している。職員紹介はホーム便りで行い、金銭管理は面会時に確認サインをもらっている。誕生会をそれぞれの誕生日に行うようにしており、面会についても家族に意識が高まってきた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者職員は家族などの意見を取り入れる重要性を認識し、ホーム代表と家族会代表者が窓口になり、連絡先を玄関に明示するとともに重要事項説明書にも地域代表とともに苦情相談の受付窓口として明記している。職員も話しやすい関係が構築できるように、家族と密な関わりに努めている。出された意見、要望などについては職員とともに検討し、結果を伝えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着が良く、やむを得ない理由で一度退職した職員も復職している。新人の職員でも現時点で二年近く勤務しており、なじみの関係が構築されている。基本的に異動は行わない方針である。また、両ユニット合同でホーム内イベントを行っており、職員利用者ともに顔なじみである。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の育成の必要性を理解し、常勤、非常勤に関わらず、全職員が交代で外部研修に参加できるようにしている。各委員会報告を内部研修とし、全員が知識を共有し、質の高いケアを目指している。また、月1回のミーティングでもホーム内研修を行っている。資格取得の支援もしており、ほとんどの職員が更に上の資格取得を目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区グループホーム連絡協議会に加入し、夜勤者以外は全員が研修に参加し、情報交換や交流に努めている。谷山ふるさと祭りに連絡協議会で踊り連を結成し参加したり、今後の取り組みとして劇団を結成し社会問題や福祉に関する寸劇を地域の敬老会やお達者クラブの場で見てもらい、グループホームの啓発と社会貢献を目指し計画中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	待機の間も家族、本人と何度も会い、出来るだけなじみの関係の構築と情報収集に努めている。また、可能な限り自宅を訪問し生活環境や生活歴の把握に努め、入居後もなじみの環境が保てるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を介護されるのみの立場に置かず、利用者と信頼関係を築きともに日々を楽しく過ごせるように努めている。日常の関わりの中で利用者からもらう「ありがとう」の言葉が職員は励みになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、自己決定の場面作りに努め、言動や表情から一人ひとりの思いや意向を把握するようにしている。また、意思を伝えることが困難な利用者は家族の協力や日頃の行動から各スタッフが把握している情報を共有し、本人本位に検討し、本人らしさ、なじみの生活が継続できるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向、職員の意見、主治医の指示に従い本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	出来る、出来ないシートを作成し、日中、夜間の状態把握に努めアセスメントを3ヵ月ごと、ADL認知度評価を6ヵ月ごとに行い、介護計画に反映させている。毎月モニタリングを行い、見直しの必要性を検討している。定期的な見直しは3ヵ月で行い、状況変化時や入退院後の見直しはその都度行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、病院受診や外食、外出など柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。看護職員もおり、主治医への報告は随時している。受診の際は日常生活記録表を持参し、日々の状態報告を行い、かかりつけ医との連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の在り方については入居時に家族の意向を聞き、看とりは家族の協力なくしては出来ないことを理解してもらい、方向性を話し合っている。ホームの方針を文書化した指針を作成し全職員が共有して、本人にとって一番最良の方法を探し、ホームができる最大限の支援を行っている。これまでに看とりの経験もあり、チーム(主治医、訪問看護、家族、ホーム)としての支援体制で実現できた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのこれまでの歴史を尊重し、声かけに注意し、誇りやプライドを損なわないように心がけている。記録の保管や個別に面会簿を作成するなど個人情報の取り扱いにも配慮し、職員採用時の個人情報保護についての誓約書もとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、就寝などこれまでの生活習慣、希望に合わせた個別のケアで支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力に合わせて下ごしらえ、片づけなどを職員とともに行うなど、力を発揮する場面を作っている。また、食器や補助具、食事形態の工夫で残存能力を活かし、おいしく、楽しい食事になるように支援している。利用者の中にはパンやラーメンを好む方もおり、一緒に買い物に行き購入している。また、牛乳などを定期的に購入している利用者もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴になっているが、希望があれば毎日の入浴も可能である。異性介助を嫌う利用者には同性介助で対応し、安心して入浴できるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	週刊誌、新聞の購読やテレビの時代劇、クイズ番組、歌番組の好きな利用者も多く、日々楽しんでいる。洗濯物干し、たたみ、調理、台所の片づけ、居室のふき掃除などそれぞれの生活歴や力を活かした役割の支援や裁縫や園芸など趣味や特技を活かした支援を行っている。また、花見、外食、ソーメン流し、動物園、お祭り見学などさまざまな気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩、花壇の手入れ、買い物と外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、プライバシーに配慮しながら個々の日常生活を把握し、常に安全で自由な暮らしが送れるように支援している。1階、2階ともに入り口にはセンサーやベルが鳴るようにしてあり、外出したらさりげなく着いて行き、見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち会いのもと自主的に昼夜間想定で年2回避難訓練を行っている。近隣の病院とは非常時の協力を得られるように話し合っており、避難訓練には病院職員も参加している。非常用備蓄は数日分の食料や水は確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は記録し、職員は個々の状態の把握をしている。身体状況に応じて補助食器の使用と食事形態(おかゆ、刻み食など)を考慮している。水分の代わりに果物をミキサーにかけて提供したり、お茶の苦手な利用者には代わりに牛乳などで対応している。食の安心、安全に努め、栄養バランスや季節感を考慮して献立を作成している。毎月体重測定を行い、定期的に採血も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のリビングは広く、明るく、季節の飾り物がしてあり、家庭的な雰囲気である。換気も行きとどいており清潔感がある。利用者が日中を居心地良く過ごせるようにテレビやソファなど配慮されている。廊下の手摺は利用者のリハビリにも使用されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッドのみが備え付けで布団は好みのものが持ち込まれている。ベッドからの転倒防止にマットレスを準備したり、希望により畳も敷いてある。テレビ、仏壇、家族の写真などが持ち込まれ居心地良く過ごせるように工夫されている。机に向かい家族が作ってくれた歌集に目を通す利用者や自宅で飼っていた猫とともにホームに入居している利用者もいる。		